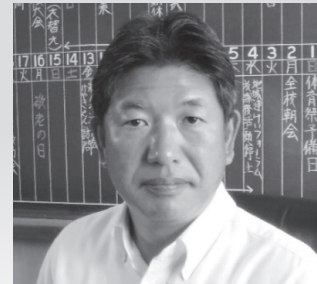


# 特別活動

## 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ集団や自己の課題を解決する

特別活動では、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組みます。「自分達の課題は自分達で解決する!」のように、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の課題解決に取り組むことをとおして、資質・能力の育成を目指します。



県中教研 特別活動部 全県部長  
長岡市立江陽中学校

校長 佐藤 裕之

### 特別活動で育む資質・能力と三つの視点

特別活動では、学んだことを人生や社会での在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を意識して身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになることが重要です。指導に当たっては、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、以下の資質・能力を育成します。

#### 「知識及び技能」

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

#### 「思考力、判断力、表現力等」

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

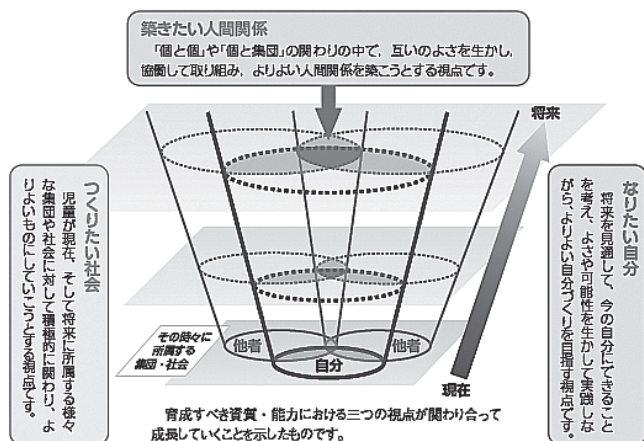
#### 「学びに向かう力、人間性等」

自主的、実践的な集団活動を通して身につけたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

また、資質・能力を育成するための視点として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つが示されました。これらの「視点」は、「資質・能力の育成における重要な要素であり、資質・能力を育成する学習過程においても重要な意味をもつ」とされています。この三つの視点を常に意識し、学級や学校で実施される特別活動の様々な集団活動等を検討・吟味することが求められています。下図は、「三つの視点」をイメージ化したものです。

#### 特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成	社会参画	自己実現
違いを認め合い、みんなと 共に生きていく力を育てます。	よりよい集団や社会をつく ろうとする力を育てます。	なりたい自分に向けてがん ばる力を育てます。



## 深い学びにいたる題材・学習過程の工夫

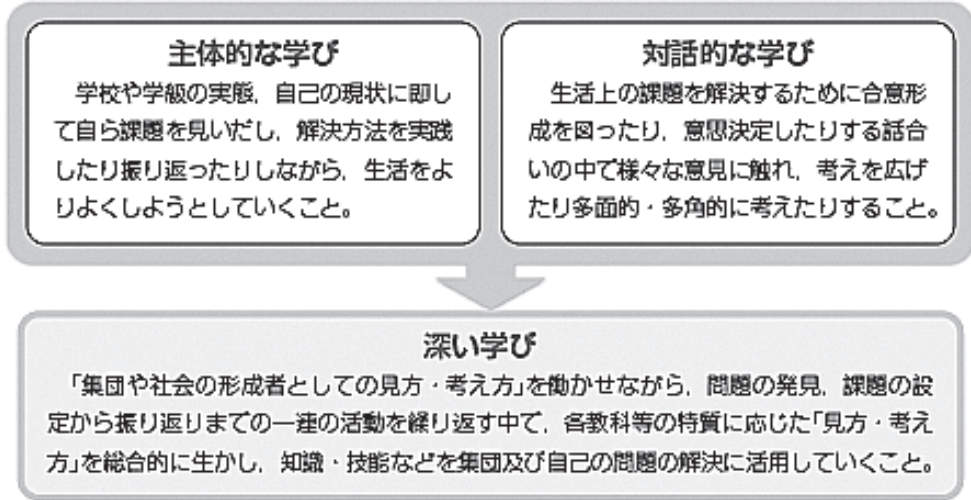
特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現とは、学級活動や生徒会活動、学校行事等の学習過程をとおして、生徒が資質・能力を身に付け、中学校卒業後も能動的に学び続けることができるようにすることです。そのためには、授業や指導の工夫・改善を行い、一連の活動過程の中で質の高い学びを実現することが求められます。

上越市立牧中学校では、1～3年生の3年間を通して「タイムカプセルを作る」という共通のテーマを掲げ、キャリア教育に取り組んでいます。将来の自分の姿を考え、そのために今の自分について振り返ったり仲間との対話をとおして他の考えを知ったりする活動、また、地域を支えている様々な方々の思いや実践を知る、職業体験で学ぶ等の活動を行います。各学年での実践、その時々自身の考え、思いや振り返りをポートフォリオとしてタイムカプセルに詰めようというものです。この取組では、生徒は「10年後になり

たい(なっていたい)自分」について考え、なりたい自分になるために、今、そして今後の自分がどう行動するかを考え、自身の進路選択につなげることができることを目標としています。

新潟市立宮浦中学校では、生徒により生徒会で「自校の課題」として取り上げられた事柄の解決に向け、生徒が「自分たちの課題は自分たちで解決する」ことに挑戦する取組を行っています。それを支えるものとして、「共に学ぶ、友に学ぶ」をキーワードに、学級活動・道徳・生徒会活動等が連携した実践を行っています。また、話し合い活動を年間をとおして計画的・継続的に行い、生徒が課題解決に向けて話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりするなど、よりよい人間関係を育む学級経営・授業経営の基盤を構築します。これらの取組により、生徒が「自校の課題」を自分ごととして受け止め、解決を図ろうとする姿を期待しています。

### 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善



#### <引用・参考文献>

国立教育政策研究所 (H30) 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】」教師用パンフレット  
文部科学省 (H29) 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」  
名古屋学芸大学教養・学際編・研究紀要第16号 (R 2) 「特別活動の指導法における『三つの視点』と学級活動」

## 特別活動 重点目標

- 望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。
- 学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。
- 自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。

# 特別活動 <上越地区・上越市中教研>

## 「牧中タイムカプセル」

研究主題：個々の生徒の自己実現に向けた主体的な実践活動

開催日：10月21日（金）

会場校：上越市立牧中学校

公開：1学級

授業者：2年 山本 明子

指導者：上越教育大学 教授 阿部 隆幸 様

上越市教育委員会 指導主事 小山 明 様



研究推進責任者  
上越市立清里中学校

白川 大輔



会場校領域担当者  
上越市立牧中学校

山本 明子

### こんな深い学びの姿を目指します

生徒一人一人が、自分の将来の生き方や生活、地域の将来について興味・関心をもち、「どんな自分になりたいか」を考え、イメージをもつとともに、自ら課題を見出して、自分のこと、学ぶこと、働くこと、他人と関わること、そして生きることについて考え、見通しと目標をもって生きていこうとする姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 地域に学ぶ、地域を 考える取組の 推進

「牧を熱くしたい」という思いをもった地域のゲストティーチャーを招き、彼らの生き方に触れることで、中学生が主体的に地域や自分の将来について考えることができるように取り組んでいます。

また、まちづくりワークショップで、地域の方と一緒に牧の将来について考えることや、地域の方の思いに触れることで、主体的に実践する意欲につなげたいと考えました。

#### ポイント2

#### 学校全体で特別活動と 総合的な学習が連携した キャリア教育

生徒たちは「10年後の牧と自分」について考え、自分たちの考えや成長の足跡を残すためにタイムカプセルの作成を進めています。地域について調べ、考え、発信することは、総合的な学習の時間で行っています。特別活動では、自分を見つめ、目指すべき自己の将来像を描くことを目標にしています。それらを連携させることによって、様々な角度からキャリア教育を進めたいと考えています。この取組を貫くテーマは「なりたい自分になる」です。

## 単元(題材)の様子

### ①まちづくりワークショップ

#### ポイント1

「10年後の牧を考える」をテーマに、学校運営協議会の方々をお迎えしてまちづくりワークショップを行いました。牧のよいところ、課題を全校生徒がそれぞれ出し合い、それをもとに、各学年の総合的な学習の時間のテーマに関わる課題を設定し、その解決策を学年ごとに考え発表しました。



### ②ようこそ先輩ミニ講演会 (R3年度6回, R4年度5回実施の予定)

牧中学校にゆかりのある「先輩」や地域で活躍されている方をお招きし、中学生に向けて様々な経験談やメッセージをお話していただくことを通して、さまざまな生き方や考え方があることを知り、夢に向かって自己を高める意欲をもち、地域に誇りをもてるようにと実施しています。



### ③1年次の取組

#### ポイント2

特別活動におけるキャリア教育の実践において、将来の自分について考える活動や現在の自分たちについて振り返ったり、話し合ったりする活動を継続して実践するため、「タイムカプセルを作ろう」をテーマに、ポートフォリオの側面も期待してスタートしました。授業公開では、10年後にタイムカプセルを開けたときの気持ちや、どんなものを残していきたいかを話し合いました。

### ④プレ授業公開(令和4年6月17日)

職場体験学習を通して自分自身が身に付けたいことや成長した姿を具体的に考えることで、見通しと目標をもってより主体的にキャリア教育としての職場体験に取り組み、「なりたい自分」を考えるステップとしました。



タブレットで意見を共有



思考ツールを使って

### ⑤職場体験学習

牧地区内の事業所に依頼し、職場体験学習を実施しました。事前学習では、職業調べのほか、マナー講座など対人スキルについて学ぶ機会をもちました。



(令和4年10月21日)

### ⑥「10年後の自分を考える」

牧の10年後を考える取組や、これまでに学んだことをふまえ、「10年後になりたい自分」を考えます。そして今、どんなことをどうやって頑張っていくのか考える授業を予定しています。子どもたち一人一人が自分を見つめ、それぞれがファシリテーターの気持ちになって動き、盛んに意見を交流し、考えを深める場面をつくりたいと考えています。



# 特別活動 <新潟地区・新潟市中教研>

## 「合意形成に向けた話し合いスキル」

研究主題：よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫  
～他との関わりを必要とする活動を中心として～

開催日：11月24日（木）

会場校：新潟市立宮浦中学校

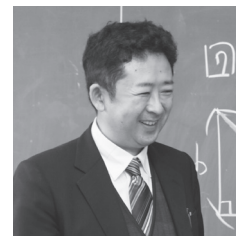
公開：1学級

授業者：2年 中村 匡宏

指導者：新潟市教育委員会 学校支援課 課長補佐 三條 貴之 様



研究推進責任者  
新潟市立内野中学校  
松山 綾子



会場校領域担当者  
新潟市立宮浦中学校  
中村 匡宏

### こんな深い学びの姿を目指します

「自分たちの課題を自分たちで解決する」というところから、「共に学ぶ、友に学ぶ」というキーワードを立てて、よりよい人間関係を育む学級経営・授業経営の基盤を構築します。小学校で培った話し合いのスキルをレベルアップし、年間を通して話し合い活動を継続的に行うことで生徒自身が集団生活や人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い合意形成を図ったり意思決定したりする姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 目的に応じた話し合いを設定する

班単位、クラス単位で合意形成に向けて話し合いを行う際に視点を明確にすることで、合意形成に向けた話し合いを全員で行います。小学校での話し合いのやり方を基に、互いの意見を尊重しながら他者と関わる姿を育成します。また、思考ツールを用いてメンバーの意見を可視化します。

#### ポイント2

#### 年間を通して話し合い活動を設定する

年間を通して行事ごとに話し合い活動を全校体制で設定することで誰とでも話し合い、自分事として捉えることで話し合い活動に積極的に参加するように促します。（4月…学級目標、6月…理想のリーダー像、7月9月…運動会、クラス合唱に向けたスローガンの作成、11月…学級での思いやり宣言の作成）

#### ポイント3

#### 全校朝会や道徳で、「自分事として捉える」ように支援する


12月の思いやり集会に向けて、「イジリ見逃し0」という視点で各クラスの実態を振り返るという活動を生徒会が主体となって行います。道徳で心情面を育て、生徒から呼びかけを行うことで自分事として捉えることができるようにします。

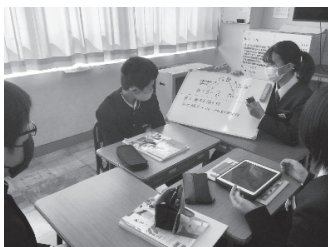
# 単元(題材)の様子

## ポイント2

## ポイント1

小学校で培ってきた話し合いのスキルを育成し、「共に学ぶ・友に学ぶ」姿での話し合いを構築します。

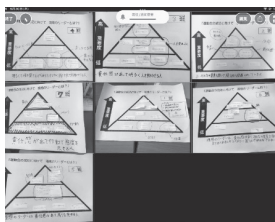
時	重点	○学習活動
1 ・ 2	主	学級目標の設定
3	思・判・表	理想のリーダー像を考える
4	知・技	運動会学級スローガンの設定
5	知・技	合唱学級スローガンの設定
6	主	集団や他者との関わり方に関する道徳
7	思・判・表	学級でのイジリ等の実態を振り返る
8 (本時)	思・判・表	 <b>研究会</b>
		学級での思いやり宣言を考える
9	主	思いやり集会



学級目標を自分事として捉えられるような問いかけをします。「〇〇ができるとどんな学級になるだろうか」「〇〇という姿になるためには何を頑張ればよいだろうか」

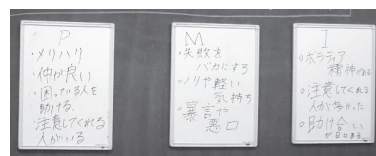
## ポイント1

理想のリーダー像を各クラスで考え、それに基づいて各リーダーを選出します。その後運動会やクラス合唱でのクラス目標を生徒たちの話し合いで設定します。



## ポイント3

イジリやいじめに関わる教材について全員で考え、学級でのイジリの実態を共有します。



生徒会からの提案を受けて、学級でイジリやいじめをなくすためにはどうすればよいか考え、スローガン(思いやり宣言)を作成します。